

令和7年度第2回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和8年3月9日（月）10：00～11：30
場所	えにあす 1階 ホール
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター長）
	瀬恒 健太（恵庭工業クラブ サッポロビール北海道工場 副工場長）
	高岡 哲子（北海道文教大学 副学長 医療保健科学部看護学科教授）
	安藤 隆善（北洋銀行 恵庭中央支店長）
	西村 直輔（北海道銀行 恵庭支店長）
	川浪 伸介（北海道新聞社 千歳支局長）
	宮崎 圭介（連合北海道恵庭地区連合）
	川原田 聡（千歳公共職業安定所 所長）
	中村 敦史（中央コンピューターサービス株式会社 地域デザイン事業本部 未来創生部 部長）
	矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長）
議事	（1）第6期恵庭市総合計画基本構想について
	（2）地方創生の推進について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
確認	●企画振興部次長 欠席者及び委員の交代について説明・出席人数の確認
市長 あいさつ	●市長 恵庭市のまちづくりは、総合戦略に基づき進めており、戦略に沿った令和8年度予算について、議会で審議中です。認められれば4月から執行になりますので、これからも本懇談会で皆様の活発なご意見をいただきますようお願いいたします。 恵庭市ではこれまで2年にわたり、第6期総合計画の策定作業を進めてまいりました。昨年12月に基本構想を議決いただき、令和8年度から計画期間開始となります。策定にあたっては小磯会長を始め、市民ワークショップや市民意識調査など、多くの方々にご意見をいただきながら作り上げてきました。この計画を基に、これから10年間のまちづくりを進めてまいりたいと思います。

<p>市長 あいさつ</p>	<p>これまで議論を重ねてきた柏陽地区複合施設整備事業は、民間の力を借りながら整備しており、国の地域未来交付金を活用しています。様々な世代にわたって活用できるような、公共的な空間と民間の施設などをあわせもった施設で、本格的に令和8年度から整備が進められます。また、島松地区でも複合施設を建設しており、令和8年度中に整備完了、使用開始されます。</p> <p>また、ラピダスの関連も含めて、新しい工業団地、住宅系、商業系ということで、新しい市街地の形成に取り組んでいます。ラピダスという国家的なプロジェクトに恵庭市として貢献したいという思いの中、検討作業を進めているところです。</p> <p>最後にファイターズ2軍は、どうなるかまだ分かりませんが、恵庭の可能性が注目されているということを大変嬉しく思っています。そうしたことを進めていくためには、総合戦略、総合計画に基づいたまちづくりが最も重要だと思います。この恵庭創生懇談会の役割の重要性を十分に認識しながら進めてまいりたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。</p>
<p>自己紹介</p>	<p>恵庭創生懇談会委員あいさつ 委員自己紹介（新規委員のみ）</p>
<p>確認</p>	<p>●企画振興部次長 配布資料の確認</p>
<p>議事</p>	<p>●事務局 議題 「(1) 第6期恵庭市総合計画基本構想について (2) 地方創生の推進について」 説明</p> <p>●会長 第6期恵庭市総合計画基本構想について説明がありましたが、策定に向けては総合計画審議会で話し合いを積み重ね、私は審議会の会長として意見のとりまとめを行いました。</p> <p>策定にあたっては、丁寧に市民の声を聞く機会が設けられており、総合計画審議会でも、各委員から忌憚のない意見があり、市民の皆さんと一緒に作られた計画だと思います。取り巻く背景としては、人口減少という大変厳しい状況がある一方で、ラピダスなど大きな外からの影響があり、外国人も増加する。その流れをどのように受け止めていけばいいのか、難しい議論だったと思います。</p> <p>新しい総合計画に記載されている「文化創造都市」は、私が活動している、北海道文教大学地域創造研究センターにおいて進めている文化創</p>

議事	<p>造都市プロジェクトの、地域にある足元の資源を今後の発展の力につなげていくという発想です。これまで文化とは、大切な歴史遺産を守るといったやや狭い発想でしたが、実は足元にある色々なものを幅広く地域の文化資源として捉え、国際交流、観光、福祉政策なども含めて広く捉えていこうという考えです。これが総合計画の特徴になっています。</p> <p>それを受けて、どのように地方創生を進めていくのかというのは難しく、人口減少とともに、AIに代表されるような、デジタル化の新しいシステムが急速に地域社会の中に入ってくるという、一つの自治体だけで受け止められない新しい動きが出てきています。それが地方創生を推進するうえでの一つの大きな課題になっているように感じます。</p>
意見交換	<p>●A委員</p> <p>新しい総合計画の中にも、ガーデンシティブランドの訴求が押し出されています。恵庭市のふるさと納税事業に携わっていますが、特に恵庭市の事業者の皆さんは恵庭市愛がとても強く、この愛を全国に届ける活動に関われることを嬉しく思います。総合計画の中にも、人口減少の中で関係人口をどのように増やすのかというテーマがあると思います。</p> <p>総合計画の「安心して暮らせる」「学びが循環し」という、恵庭市の方向性が整理されており、恵庭市に住む方、働く方をいかに増やすかという意味では、私たちが取り組む事業が重要だと思っています。</p> <p>特に地域経済を循環可能にしていく取り組みの中で、恵庭市が掲げている教育という分野も、今後どのように稼ぐ力にしていくかという観点は重要と考えており、そのようなデータを取り、皆さんに提供しながら、活躍できる場づくりのようなことを私たちができたらいいと考えています。</p> <p>首相が変わっても、地方をデジタルでどのように推進していくかというテーマは、内容的には同じような取り組みだと考えています。総合計画にもデジタルが含まれていますが、私たちはAIの分野の活用を進めています。ふるさと納税のワンストップ特例制度の処理は、5年前は紙で行っていましたが、現在は20万件ほど処理していますが、AI-OCRや、マイナンバーカードを使ったオンライン処理が8割程度になり、短縮を実感しています。</p> <p>業務の中でもAIが浸透してきていますが、業務上の流れがデジタルになっているところが必要で、行政の場合は内部でデジタル化が進んでいるが、住民との間のデジタル化がなかなか進まないというのがあって、ここがデジタル化されないと魅力が発信されないというところがあり、住民が成功体験を積み重ねられるような、小さなところから活用していくという部分を進めていくと、総合計画の内容以上にデジタル化が進む</p>

意見交換	と考えました。
	<p>●B委員</p> <p>雇用の面でお話すると、外国人の労働という問題と、よく言われる治安の問題と両方を考える必要があると思いますが、労働者としていなければ産業自体が成り立たないのではと考えています。ハローワークでは窓口で翻訳機での会話を行うなどしており、外国人の労働という面ではしっかり対応していきたいと思っています。</p> <p>事業所を訪問して思うことは、恵庭市の交通の便が非常にいいということですね。札幌・苫小牧間から通っている方もおり、そういった意味では、我々ハローワークも管轄にとらわれず、来た人をマッチングして契約が成立するように斡旋していこうと思っています。</p> <p>人口減少とは言いながら、この地域は影響が少ないと思いますので、人口減少に向けた準備がしっかりできると思います。</p> <p>●会長</p> <p>B委員から提供いただく最新のデータは、政策を考えていく貴重なヒントです。特に外国人との共生の視点は、外国からの移入に対してややブレーキかけるような風潮がある中で、地方が活性化していくためにどういう形がいいのかということも思いながらお聞きしています。</p>
	<p>●C委員</p> <p>恵庭は市民の声を大切にす素晴らしいまちだと感じています。私は市外在住ですが恵庭育ちで、通勤のたびに故郷の落ち着きを感じます。恵庭は札幌や千歳、ルスツなどのリゾート地へのアクセスも良く、道が広く、空が高い、非常に魅力的な環境です。特に子どもの頃、道路を渡らずにトンネルを通過して公園へ遊びに行けた安全なまちの設計は、今思い返しても素晴らしい点です。同僚や保護者にも「恵庭に戻ってきた」という方が多く、住み続けたいと思わせる魅力があるのだと実感しています。</p> <p>最近学校にも外国籍の児童が増えています。彼らが大人になっても恵庭に住み続けられるような制度やシステムがあれば、将来の定住に繋がるのではないかと期待しています。</p> <p>学校現場のICT活用については、子どもたちはタブレットを使いこなし、AIで物語のあらすじを作成して結末を自分で考えるなど、高度な活用を始めています。一方で、低学年からのタイピング習得や、学習ソフトのセキュリティ面の課題も出てきており、各校で対応を模索している現状があります。</p>

意見交換

●D委員

この1年、第6期総合計画の記事化などを通じ、恵庭市の構想は明確であると感じました。議論になっている外国人住民の急増については、国の育成就労への転換により、家族帯同や定住・永住の可能性が広がります。子どもたちの教育や海外視点の取り込みなど、多角的な視点を持っていただきたいと期待しています。道内では自治体が解決せざるを得ない課題も多いですが、市民活動が活発な恵庭なら、自治体との連携で解決のモデルケースを作れるのではないのでしょうか。

また、スポーツ活動の盛んさも恵庭の強みです。「えにあす」のような中心部への機能集約に加え、島松・恵み野・恵庭の3エリアがフラットに繋がる利点を活かし、イベントを通じた健康維持やスポーツ環境の整備が進めば、より住みよくなると感じます。

三四会のような若い経済人が主体となって祭りを盛り上げる姿は、まちが元気の証です。ラピダスなどの影響を考えれば、このJR千歳線沿線は今後100年の北海道を決める重要な場所となります。近隣自治体との広域連携によるイベントなども面白い試みになるでしょう。

最近には駅前にバルが出店するなど、人を留める機能も出始めています。駅周辺の建ぺい率緩和で民間投資を促している千歳市の事例もありますが、恵庭でも駅周辺の活用やルート作りをまちづくりに位置づけることで、さらに勢いが出るはずですよ。

●E委員

現在、工場を持つ企業にとって最大の課題は、事業を継続させるための持続性の向上です。機械化が進んでも「ものづくり」の基本は人であり、少子化による深刻な人手不足は共通の悩みとなっています。

そんな中、来月入社予定の新入社員は恵庭在住者です。地元在住者が地元企業に勤めることは、通勤の利便性だけでなく、JRなどの交通機関が麻痺した際でも通常どおり出勤できるという、工場の安定運営面で非常に大きな強みとなります。

こうした視点から、市民がずっと恵庭に価値を感じ、住み続け、働く場所としても地元を選んでくれるようなプランが必要だと思います。

一方で、地元住民だけで全てを補うのは現実的に難しいため、北海道文教大学やハイテクノロジー専門学校などの教育機関との産学連携も不可欠です。恵庭の産業の魅力を伝え、学生が就職先として地元企業を志すシナリオを、我々産業界も構築しなければなりません。

地元にはゆかりのある人材を継続的に確保していく視点を持ち、恵庭のまちづくりに貢献していきたいと考えています。

意見交換

●F委員

先ほどのE委員のお話に関連し、本学でも地元の小中高卒業生に入学してもらい、そのまま地元企業へ就職してもらえよう教育に力を入れているところです。

教育面では、看護の実習として「地域フィールド実習」を行っています。学生が地域の健康課題を見つけ出す活動ですが、市役所の協力や、学生を温かく包み込んでくださる市民の皆様の包容力のおかげで、拙いコミュニケーションながらも貴重な情報を得ることができています。市長のお話の「市民の力を借りて」という基盤の中で、本学も生かされていると実感しており、学生が見出した課題や支援策を今後どう発信していくかが、基本目標に関わる重要な課題だと考えています。

また、高齢者の視点では、「憩の家」の周知は進んでいるものの、実際に一歩踏み出す人がまだ少ないのが現状です。現在主体となって活動している方々の巻き込む力が強まれば、より賑やかになると感じています。私たちがその活動の価値をさらにPRしていくことも必要です。

健康づくりに関しては、市のアプリ「えにわか」を、高齢者がより活用できるようになれば、ポイント制度などを通じて健康増進に繋がると期待しています。こうしたイベントや取り組みに積極的に参加していくことが、本学および私たちの役割であると考えています。

●G委員

金融機関の立場からお話いたします。ここ1年、特に多く寄せられるのは「土地」に関する要望です。企業の進出拠点や、個人の居住地を探したいという声が非常に増えています。

一方で、課題にもあるとおり超高齢社会への対応として、空き家の増加も顕著に感じています。当行には不動産業に携わる関連会社もあり、空き家の売却支援などの対策において、民間企業としてもしっかりと協力していきたいと考えております。

また、恵庭市は高齢化が進む一方で、大学や専門学校が集まる若い世代にとっても非常に魅力的なまちです。我々金融機関が持つ様々なツールやネットワークを活用し、こうしたまちの強みを活かした事業を支援できるよう、良い形で連携を深めていければと思っています。

●H委員

恵庭市はラピダス進出などの立地条件に恵まれ、民間企業の景況感是他地域と比べても良好です。子育て環境の整備も進んでいますが、一方で大学や専門学校などの教育機関における学生確保は、少子化の影響で個別の努力だけでは解決が難しい課題だと感じています。

意見交換	<p>高齢化への対応については、市内の福祉施設は充実していますが、全国的に公的病院が物価高や診療報酬制度の影響で赤字を抱えるなど、地方創生の大きな壁となっています。恵庭市は民間病院が中心ですが、教育や高齢者支援の機能を維持するためには、行政による補助金や助成金といった公的な支援を一層強化していく必要があると考えます。</p> <p>総じて恵庭は非常に元気なまちという印象です。勢いのある分野と、支援が必要な分野にしっかりメリハリをつけた施策を展開することで、より一層活気あるまちづくりがなされることを期待しています。</p>
	<p>●副会長</p> <p>道が現在策定を進めている「北海道総合戦略」の改訂状況を交えてお話しします。</p> <p>改訂版の主なポイントは、国の政策を踏まえた、若者や女性に選ばれる地域づくり、A I の活用、市町村連携の強化です。恵庭市は花のまち、文化のまちとしてのブランディングが確立されており、若者や女性に選ばれる素地が十分にあります。今後、複合施設などが整備されることで、子育て世代が親子で長時間過ごせる場が増えれば、暮らしやすさは一層向上し、大きなPRポイントになると期待しています。</p> <p>若者の定着については、キャリアアップを求めて首都圏へ流出する動きを止めるのは容易ではありません。そのため、フィールドワークなどを通じて地域への愛着を育む関係人口の創出が重要です。恵庭の美しいまち並みは、学生にとっても「暮らしやすい」という強い印象に繋がるはずで</p> <p>す。</p> <p>また、人口減少対策として外国人との共生も避けて通れません。単に労働力として呼び込むのではなく、今いる外国人と地域住民が互いに理解を深め、共に暮らしやすい環境を整える「相互理解」がスタート地点となります。外国人住民が増加している恵庭市と協力し、先進的な共生の取り組みを進めていきたいと考えています。</p>
	<p>●市長</p> <p>関係人口については、ふるさと納税などでの繋がりをさらに深め、実際に足を運んでもらうための工夫が必要です。</p> <p>デジタル化に関しては、高齢者への配慮として紙媒体との併用も継続しますが、公式LINEの活用やA I などの新技術も積極的に取り入れていく方針です。</p> <p>外国人との共生については、地方都市ならではの親和性を活かし、文化交流や住みやすさを実感してもらえる多文化共生政策を進めます。一方で、国に対しては、外国人の生活全般を支える一元的な窓口の創設を要望</p>

<p>意見交換</p>	<p>していく考えです。</p> <p>まちの活性化策として、恵み野中央公園を令和8～9年度に再整備します。市民ワークショップの意見を反映し、AIも活用した快適な公園を目指します。また、駅周辺の賑わい創出は、住民や商店街を巻き込み、市民主体で楽しいまちを作り上げることを目指して検討を続けます。</p> <p>産業・雇用面では、地元企業に地元住民が勤める好循環を重視し、大学・専門学校からの就職を促進します。また、新たな中小企業支援として、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、働き方改善や設備投資を支援する仕組みを公表予定です。金融機関ともタイアップし、人材確保に繋げていきたいと考えています。</p> <p>福祉・医療については、就労高齢者の増加に伴い、老人クラブに代わる新たな居場所づくりを検討します。空き家対策では解体への支援も開始しました。本市には公立病院がありませんが、市民の医療確保のため、民間医療機関への支援のあり方も考えてまいります。</p> <p>引き続き、若者、女性、そして外国人にとっても居心地が良く、選ばれる恵庭市を皆様と共に作っていきたいと考えております。</p>
	<p>●会長</p> <p>私からは、委員の皆様のご意見を踏まえ、二つの視点で感想を述べさせていただきます。</p> <p>一つ目は、「地域内での経済循環」についてです。私がセンター長を務める地域創造研究センターで、「恵庭の持続的な経済発展に向けて」というパンフレットを作成しました。恵庭は多くの企業が立地するまちで生産額は大きいのですが、産業構造上、原材料調達や製品消費を域内で完結させる自給率が低い傾向にあります。今後は、域内循環を高め、さらに外から来る方々の消費による経済需要を高め、それを地域の産業で受け止める仕組み作りが大切です。</p> <p>例えば、隣接する千歳市と同規模の外国人観光客が恵庭に宿泊・滞在したと仮定して試算すると、恵庭のGRP（地域総生産）を約3%押し上げる効果があります。このように、具体的な数字で効果を可視化し、政策の理解を得ることが大切であり、今後の施策に結びつけていきたいと考えています。</p> <p>二つ目は、「足元の地域資源を活かした地方創生」です。ラピダスのような外部の大きな力だけでなく、恵庭独自の魅力を磨くことが重要です。その代表例が「読書文化」です。恵庭は25年も前からブックスタートや朝読書などの読書政策を先進的に進めてきました。この「本の力によるまちづくり」は、全国に誇れる恵庭の政策資源であり、市役所としても強力に発</p>

意見交換	<p>信を続けていくべきです。</p> <p>地方創生とは、単なる議論に留まらず、関係者が「自分たちにできること」を模索し、実行していくプロセスです。本日の皆様の貴重なご意見を市役所でしっかり受け止め、今後の展開に活かしていただけることを願っています。</p> <p>今回のラピダスのこれほどの立地の動きは、戦後の北海道にはありませんでした。そこにどう向き合うか、この大きな投資機会に地域としてどういう戦略で臨むのか、そこはある程度思い切った挑戦的な姿勢でまちづくりを進めることが大事だと思います。</p> <p>もう一つは働く方も住む方も含め、生活スタイルが大きく変化しているという点です。恵庭はこれまで住むという部分に重点を置いて政策を構築してきましたが、それだけでなく交流するという、時代の変化を上手く受け止めたまちづくりが大事だと思います。恵庭は地方創生だけでなく、総合計画、都市計画マスタープランと長期政策に大きな動きがあり、思い切った速やかな決断を長期の都市政策に取り込む姿勢が重要です。是非引き続き前向きな議論を進めていただきたいと思います。</p>
閉会	<p>●企画振興部次長</p> <p>閉会のあいさつ</p>